上皇陛下の御聖徳を後世に

令和元年５月定例評議員会
鷹司尚武氏が統理に再任
神社本庁

神社本庁（田中恒清総長）令和元年5月定例評議員会（中山高嶺議長、定数168人／出席153人）が5月23日から25日までの3日間、東京・代々木の神社本庁大講堂で開催された。上程された8つの議案のうち、予算審議特別委員会（角河和幸委員長）に付託された令和元年度一般会計予算案など4議案が原案通り可決され、その他の4議案も本庁職員の説明の後、原案通り可決された。議案審査特別委員会（金岡正和委員長）に付託された6つの議案審査特別委員会付託議案は、一部修正の後、4議案にまとめられ、可決された。

挨拶をする鷹司尚武統理＝5月23日、東京都渋谷区の神社本庁

23日午前10時に一同、統理が入場。修祓、神殿拝礼、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和の後、開会し、鷹司尚武統理が「今上陛下に対しては斯界をあげて、誠を尽くしたい。国内外に安全を脅かすことも多くあるが、神社の役割を果たし、より良い社会をつくるために神道精神をもって尽力したい」と挨拶した。

来賓挨拶に移り、小松輝世久神宮大宮司が「神社本庁の日頃の努力に感謝し、今後ともさらなる結束のもと斯界の発展、後進の指導を期待したい」と、神道政治連盟会長打田文博氏の代理で服部憲明・岩津天満宮宮司が「安定的な皇位継承のため女性宮家をめぐる議論がなされているが、万世一系の皇室は男系によって継承されてきた。憲法改正は斯界の悲願で、先輩たちの熱い思いが継承されている。粘り強く国会発議と国民投票を見据えた取り組みをしていく」と述べた。

物故者に黙祷を捧げた後に日程に入り、各都道府県から選挙委員が推薦され、議長・副議長選挙の後、議長が中山高嶺氏（埼玉県神社庁長）に副議長が川村公彦氏（高知県神社庁長）と春名明氏（後山神社役員）に決定した。続いて議事録署名議員が指名され、田中総長が挨拶をした。挨拶の要旨は次の通り。

「今秋には『即位礼正殿の儀』、『大嘗祭』をはじめ御即位に伴う一連の行事が執り行われる。新しい御代を迎え、皇室の弥栄を祈念する。神宮においては、昨年も850万人を超える参拝者があり、高い参宮気運を維持している。一方、神社大麻・暦の頒布活動を取り巻く環境は厳しく、減退傾向が続いている。本宗奉賛活動の協力推進に努めていく。

皇室護持運動については、天皇陛下御即位にあたり、国民挙って御慶事を寿ぐべく、関係団体等と協力し、奉祝行事を展開する。『安定的な皇位継承を確保するための諸課題』と『女性宮家の創設等』を検討するとの問題に関しては、神道政治連盟や関係国会議員と連携し、歴史的に男系継承が古来例外なく維持されてきた重みを踏まえ、皇室の将来的安定化に向けた方策が検討されるよう対応を図る。

憲法改正に向けた取り組みについては、国会での論議の活性化と、改憲気運の醸成を目指し、神道政治連盟が取り組む『公開憲法フォーラム』に協力し、『美しい日本の憲法をつくる国民の会』と連携し、さらなる実践活動に努める。

令和元年度の一般会計予算については、総額が48億9634万円となり、前年度に比較して、6216万円の減額計上となっている。

皇室と神宮、神社との深い結びつきが広く国民に再認識される好機となることを願う」

次に議案審査特別委員が選任された。上程された議案は次の通り。第一号・令和元年度一般会計歳入歳出予算案、第二号・一般会計資金年度内一時繰り替えの件、第三号・平成三十年度御代替関係特別会計歳入歳出補正予算案、第四号・令和元年度御代替関係特別会計歳入歳出予算案、第五号・神社祭祀規程の一部を変更する規程案、第六号・御代替記念昇級特別措置に関する規程案、第七号・御代替記念昇階特別措置に関する規程案、第八号・財務規程の一部を変更する規程案。第一号と第二号は一括議題として扱われ、令和元年度の一般会計予算大綱が田中総長から発表された後、詳細が神社本庁職員から説明された。第三号と第四号も一括議題として扱われ、詳細の説明が行われた。その後予算審議特別委員が選出され、午後3時20分から議案審査特別委員会が開かれた。（3面に続く）

一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設
〈社是〉

宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940（代）
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2019

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

初期禅宗史研究の国際シンポ
世界の初期禅研究家が参加
東洋大学

5月25・26の2日間、東京都文京区の東洋大学で国際禅研究プロジェクト（伊吹敦代表）・東洋大学東洋学研究所主催の「国際シンポジウム・初期禅宗史研究の最前線」が、日本はじめ中国、台湾、カナダ、アメリカの研究者が参加し開催された。

ベルナール・フォール教授（コロンビア大学・米国）は「初期禅と『不二』―禅における反戒律主義の文化的影響力」と題して発表。「初期禅は中観派と瑜伽行派との単なる合成にすぎない。禅の魅力は、釈迦から現今の祖師に至るまでの途切れのない師資相承の命脈と、簡単で直接的かつ効果的な形態の瞑想の提供だ。実践者は古い掟の順守を免れるという反戒律主義も禅の魅力だ」と語った。

中島志郎教授（花園大学）は「随自意三昧から一行三昧へ」の題で発表し、「南宋禅の起点である神会の坐禅定義『念不起是坐 見本性是禅』は語義としては恣意的で、初期禅宗は単なる坐禅ではない、禅定の痕跡が見え隠れする。『大乗心行論』には坐禅でない禅定の影響が見える。神会は坐禅定義を巡り南宗こそ真の坐禅だというが、『坐禅ではない禅定』があるのではとの疑問を持つようになった。『禅門経』には方便を立てる善寂の限界を批判する意図が見える。これは坐禅を宣揚した普寂を明白な対象とし、『禅門経』は坐禅ではない禅定を説く。『禅門経』はその後の禅宗（南宗系）でも継承された」と主張した。

龔雋（ゴン・ジュン）教授（中山大学・中国）は「中国初期禅門における『維摩経』」を説明し、「従来、禅宗は『不立文字』教外別伝」の流派と見なされ、禅師たちは経典を排除したように思われがちだが、様々な形で経典を扱い、解釈していた。『維摩経』は中古禅宗史の思想形成に重要な影響を与え、禅師たちは『維摩経』の観念を使用した。達摩の教えとされる『二入四行』は明らかに『維摩経』を引用して禅法を説く。中国の初期禅の時代には『維摩経』が流行し、その思想が禅宗に与えた影響は深く広い」と述べた。

イタリアの女性研究者は「内容も高く、様々な国からの研究者の発表を聞け、よい交流もできた」と満足した様子だった。

上記以外の発表者は次の通り。程正（チェン・ゼン）・駒澤大学教授「『惟心観一巻』について」、黄青萍（ファン・チンピン）・銘傳大學助理教授（台湾）「『頓悟真宗論』における禅思想の特質―禅宗と攝論思想の融合」、大竹晋（仏典翻訳家）「前定による業障消去をめぐって」、林佩鑾（リン・ペイイン）・輔仁大学助理教授（台湾）「『禅秘要法経』と『治禅病秘要法』中的禅病―論早期漢地禅修伝統的観想法門」、ウェンディ・アダメック・カルガリー大学准教授（カナダ）「Comparing Rhetorical Uses of Yogācāra and Pramaṇa Terminology in the *Ding shifei lun* 定是非論 and the *Lidai fabao ji* 歴代法寶記」、伊吹敦・東洋大学教授「七世紀後半における中國北地の思想動向―『金剛三昧経』に見る初期禅宗と三階教の接合とその意味」。

研究発表する黄青萍（ファン・チンピン）・銘傳大學助理教授（台湾）＝5月25日、東京都文京区の東洋大学

社説

「令和」の心の日本人に

百舌鳥・古市古墳群が2点、埼玉県と熊本県の古墳から発掘され、実在がほぼ確定されている最古の天皇である。

雄略天皇の御陵は5月14日、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界文化遺産登録の事前審査をする国際記念物遺跡会議（イコモス）から登録がふさわしいと勧告を受けた大阪府にある「百舌鳥・古市古墳群」の一つで、日本の国のかたちの基本ができた河内王権の価値が世界的に認められた意義も大きい。

「万葉集」に最も多く詠まれた植物は141首の萩で、119首の梅に優る。庭先に植えられ、黄葉（もみち）も楽しまれたから。ききょうは薬としても使われ、自然との関係が近かった。

上野教授は「あとがき」で「大切なことは、地域の子供たちのために、砂場をきれいにしよう…という気持ちを持っている人に対する敬意です。…そういう気持ちがあれば、どうやったら、気持ちのよいごあいさつができるか、…季節の話題で心をなごませることができるようになるか、自然に考えるようになります」と言う。その恩恵を受けながら暮らす自然への愛が、日本人の心と共同体を育ててきたのである。

深みのある言葉と思考

さらに最後に「今の日本に求められているのは、深みのある思考に、深みのある言葉です。どんなに統計の数字を並べたとしても、数字をどう読み取り、どう語るかは、人の思考によるものです。私たちは、言葉でものを考えるのですから、その言葉の深みを知ってこそ、深みのある思考もできるのではないでしょうか」と締めている。

いくらITが発達しても、それが人間不信に基づいて使われると、監視カメラがあふれる中国のような社会になってしまう。人々が支え、慈しみ合う和やかな社会をつくるには、人のため社会のために尽くすことに日常的な喜びを見いだす日本人になりたい。それが「令和」に込められた言霊の意味だと思う。

「言霊に込めし令和や若葉風」これはある地方紙に載っていた俳壇の第一席で、評には「言霊の幸（さきわ）う国の『令和』の時代がスタートした。『若葉風』に、平和を願う祝意がこもる」とあった。多くの日本人が新しい御代をそう感じている。

令和の字が取られた「万葉集」のことを上野誠奈良大学教授は「八世紀の声の缶詰、言葉の文化財」と言う（『令和』の心がわかる万葉集のことば』幻冬舎）。当時の日本人の言葉が漢字を借りて記録されているからだ。

語り継いできたから、独特のリズムも伴う。古代人の体のリズムで紡がれたのが万葉の歌と言えよう。

「万葉集」の言葉で、今では使われないのが「かはたれ時」。彼は誰？と分からない夜明け時。「あたらし」は惜しい、大切なの意味。新しいは「あらたし」と言った。「にほふ」は主に視覚のことで、特に赤や紅について使われた。「三高寮歌」の「紅におう」は古語の使い方になる。

逆に同じなのは「よのなか」。「よ」は区切られた特定の時間や空間のことで、人の一生も「よ」で、「よのなか」には人生と人の世の二つの意味があると言う。「世の中は　空しきものと知る時し　いよよますます　悲しかりけり」という歌は一種の諦観だが、そこから「世の中、捨てたもんじゃないよ」と立ち直るのが日本人。

万葉のふるさと奈良の枕詞「あをによし」の「あをに」は青朱ではなく、青い土だそう。奈良のどこかの土が、青色彩色に使われていたという。「あかねさす」は紫の枕詞。あかねは植物の名前で、その根から赤い染料が取れた。「あかねさす　紫草野（むらさきの）行き　野守は見ずや　君が袖振る」は天智・天武の2人の天皇から愛された額田王の歌で、古代人のロマンス。

冒頭を飾る歌も、雄略天皇が菜を摘む娘に「家をおっしゃってください。名を名のってください」と呼びかけるもので、当時の求婚の儀式だろう。大王が娘に敬語を使うのも面白い。

第21代の雄略天皇は、反抗的な地方豪族を武力でねじ伏せ、ヤマト王権を確立したとされる大王で、『宋書』などに記されたいわゆる「倭の五王」の一人、5世紀末の武に比定され、その名「ワカタケル」を記した刀剣つで、日本の国のかたちの基本ができた河内王権の価値が世界的に認められた意義も大きい。

「万葉集」に最も多く詠まれた植物は141首の萩で、119首の梅に優る。庭先に植えられ、黄葉（もみち）も楽しまれたから。ききょうは薬としても使われ、自然との関係が近かった。

上野教授は「あとがき」で「大切なことは、地域の子供たちのために、砂場をきれいにしよう…という気持ちを持っている人に対する敬意です。…そういう気持ちがあれば、どうやったら、気持ちのよいごあいさつができるか、…季節の話題で心をなごませることができるようになるか、自然に考えるようになります」と言う。その恩恵を受けながら暮らす自然への愛が、日本人の心と共同体を育ててきたのである。

深みのある言葉と思考

さらに最後に「今の日本に求められているのは、深みのある思考に、深みのある言葉です。どんなに統計の数字を並べたとしても、数字をどう読み取り、どう語るかは、人の思考によるものです。私たちは、言葉でものを考えるのですから、その言葉の深みを知ってこそ、深みのある思考もできるのではないでしょうか」と締めている。

いくらITが発達しても、それが人間不信に基づいて使われると、監視カメラがあふれる中国のような社会になってしまう。人々が支え、慈しみ合う和やかな社会をつくるには、人のため社会のために尽くすことに日常的な喜びを見いだす日本人になりたい。それが「令和」に込められた言霊の意味だと思う。

灯

「イエスは彼に答えて言われた、『もしだれでもわたしを愛するならば、わたしの言葉を守るであろう。そして、わたしの父はその人を愛し、また、わたしたちはその人のところに行って、その人と一緒に住むであろう。わたしを愛さない者はわたしの言葉を守らない。あなたがたが聞いている言葉は、わたしをつかわされた父の言葉である。これらのことは、あなたがたと一緒にいた時、すでに語ったことである。しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。』」（ヨハネ福音書14・23―26）

イエスは十字架の死に向かう前、こう弟子たちに語った。実際にイエスは、死んで3日目に復活し40日間活動された。50日目の五旬祭の時、弟子たちが集まって祈っていると聖霊が遣わされ、イエスがいかなる方かを悟るに至った。キリスト教会は、この日を聖霊降臨の一日として記念する。（1）

天地

東京国立博物館で3月26日から6月2日まで開催された特別展「国宝 東寺―空海と仏像曼荼羅」の圧巻は第一章「空海と後七日御修法（ごしちにちみしほ）」。最澄とともに唐に渡り、密教の第七祖である長安青龍寺の恵果和尚から伝法阿闍梨位の灌頂を受け、「遍照金剛」の灌頂名を賜った空海は、帰国後、密教の教理を完成させる▼密教は修法（すほう）を行って効験（こうげん）を得る実践的な宗教だと説いた空海が行った修法のうち、最も重要なのが、天皇の健康と国家の安泰を祈り、正月8日から14日にかけて行われる後七日御修法。平安時代には宮中に建立された真言院で、江戸時代には御所の紫宸殿で修されてきたが、明治の神仏分離令と廃仏毀釈の嵐で廃止されたのを、16年に東寺で再興し、今日まで続けられている▼鎌倉時代から江戸時代まで天皇の即位の礼で「即位灌頂」が行われるほど仏教が深く皇室に取り入れられたのは、空海が開いたこの修法によるところが大。御代替わりの儀礼と合わせ、見ごたえのある展示だった▼修法の内容は、天皇と大日如来、皇祖神アマテラスの一体化を図るもので、即位の礼にも通じる。つまり日本版王権神授説とも言えよう。江戸時代の即位の礼は庶民にも開放され、最先端のファッションが女性たちの関心を呼び、子供たちが旗にじゃれていたという。明治からは関係者だけの参加になったが、やがて一般にも開放されるようになるかもしれない。

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所 ■連絡先電話番号 ■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
〒一六〇―〇〇二二
東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話 (3353) 2940
FAX03 (5363) 5182
e-mailreligion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税、郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162−0821 東京都新宿区津久戸町 3-11
電話：03-6265-0852 FAX：03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠 著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL078（882）9305 FAX078（801）0006

日本よ、蘇れ
日本神話の知恵
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代一」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
出雲井晶 著
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して總向の地に大和国を建国。その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
（定価：本体2000円＋税）
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36 鳳明ビル102A
TEL03-3813-6344 Fax 03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋霊 著
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分、〝こんな筈では〟自殺をした状態で霊はさまよう、確化素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
四六判158頁 定価1,365円（税込）
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺本町2-17-14
TEL042（751）2558 FAX042（754）1818

新刊！
私の生命の復活
上橋 泉 著
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
四六判296頁（本体1500円＋税）
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15 ラ リュミエール1F
TEL03-6657-9000 Fax 03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

クルアーン
やさしい和訳
監訳著・水谷 周 訳補完・杉本恭一郎
2019年2月発刊 定価 2700円＋税
読みやすく、理解しやすく、真髄を極める達意の新訳
国書刊行会
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL：03-5970-7421